

ふれあい

大代地区コミュニティ推進協議会

事務局；大代地区公民館 ☎ 364-8442

新年を祝う会を

終えて

恒例になりました新年会も第八回を迎えました。前年まで一月二日に開催して参りましたが本年は都合により一月十二日に変更実施致しました。

参加者の人数について心配されましたが、大代全地域より来賓者を含めて九十名程の参加をいただき盛会裡に終わりました。会場では、例年のとおり一年振りの友人との再会を楽しむ風景がところどころに見受けられ、お互いの親交を深められたことと思います。

また、舞台では、鎌田さんのお祝い歌から始まり、大代北区ご婦人有志による舞踊、またカラオケも二十数名の出演があり、会を盛り上げていただき本当にありがとうございました。

来年も大勢の方々が参加されますよう、楽しい素敵な新年会を計画したいと思えます。最後に前日の準備、当日のお手伝いをいただきました皆様に厚く御礼を申し上げます。

コミュニティ推進部長 内ヶ崎勝夫

拝啓 東北石油さま

貞山運河が大代の町を東西に分け繁栄して来た。現在小・中学校、幼稚園、各種医院、個々の事業所、公共施設等、市民の生活に密着した営みが行われています。人口も年々増加して、生活の豊かさを象徴する近代様式建築物も多く見られる様になりました。

あいさつは心のふれあい あいさつしましよう出あった人と あいさつしましよう

また、南面には緩衝緑地公園が東西に位置して運動施設も用意されています。この地は特に、気候温暖にして、居住地としては、とても住み良い町であります。しかし、時代が移行するとともに、隣接する工業地帯との利害関係が、私達住民の暮らしを脅かす事故多発隣接地域に変わってしまいました。

正月早々起きた東北石油の人的事故、昨年末の不気味な火柱、爆音……一体、中々何をしているのか不審に思っています。

平成七年十一月に発生した爆発事故には、住民が危機にさらされ東北石油の管理体制の欠如が大きな社会問題になった事はまだ記憶に新しい。それ以降住民の不安に対する意識は高まる中で、度々重なる過失事故に我々弱者は、恐怖心が先に立ち安心出来る時は無くなりました。

世の中、さまざまな業種があり、需要と供給の関係を保ちながら、相互が責任を遂行する事により、真の信頼関係が生まれるのではないのでしょうか。

今後、住民が安心して暮らせる事を第一条件として、弁解する前に責任ある仕事の努力を求めます。

大代東 本郷 敦子

東北石油火災

事故に思う

私達がこの世に生をうけている人生八十年の間に、さまざまな災害を大なり小なり体験している。近年では天災による阪神大震災をはじめ、ロシヤ船籍のタンカー折損沈没による重油流出事故等、国内各地に大・小の災害事故が発生している。

ふりかえって我が町多賀城市では、過去の大雨による住宅地帯の冠水被害も、市当局の計画的な排水施設の増設により解消されつゝあり、災害のない住みよい町に変貌している矢先、昨年暮れから一月六日にかけて立て続けに発生した火災事故は、石油基地を目の前にしている我々大代地区に住んでいる一人として、青天の霹靂にも似た身の気のよだつ思いであつた。

仙台湾臨海工業地帯として今後ますます発展が期待されているこの地域に主要を占めている石油基地、東北石油の度重なる事故は我々地域住民に深刻な不安を募らせるばかりであり、今後絶対あつてはならない人災事故ともいえるものである。

企業側は石油精製施設として最も重要な施設の安全管理を最重要課題として徹底的な事故絶滅対策を図り、我々住民に解り易く明言をしてもらいたいものである。

大代西 佐藤 甚六

【二十才になつて】

一月十五日私は成人式を迎えることができました。成人式を迎えたからといって、今までの自分と急に変わる訳でもない気もしますが今迄の私は親の忠告もあまり聞かず、自分のわがままを通し、一人で大きくなつたつもりでありました。迷惑もかけつぱなしでした。これからは成人としての自覚と責任をもって、行動するつもりです。

そしてこれまで私を黙って温かく見守ってくれた両親には、大変感謝しています。そんな両親に報いるためにも小さい頃からの夢だった、幼稚園の先生を目指し、頑張っていきたいと思えます。

大代南 橋本 美樹

川柳

幼名で呼ばれ若やくラス会

佐藤 秀子

去年今年にも変わらぬ初日の出

本郷 ひさ

吐く息で挨拶くもる冬の道

星 繁子

新年の挨拶交わす両隣

高橋 操

賀状から人のつながり思い出し

鈴木 絹子

初日の出生きて拝む身ありがたし

阿部うめよ

御祝儀 お見舞いは 三千円を限度にお返し物はしないようにお互い気を配りましよう

〔元旦日記〕

年越しソバにも紅白にも縁のないこの頃、元朝参りは大体かかさないうから今年も朝六時おサイセンを握りしめて氏神様に向った。

初日の出に向う車の音がにぎやかだ。帰りにお守りを買って、御神酒をいただく。サカヅキにもつと云ったら、巫女さんに山盛りつがれた。今年はおふところ、山盛りおサツが入ります様に。九時マイクロバスで竹駒神社に行く。

相変わらず和田さんが運転してくれる。今年は一族郎党が主で孫達に親達が加わって、総勢十四名有料道を行くと案外近い。それにしても今年はお出が少なかったのではないか。出店は例年より多かったが、それ程の雑踏でもなくて或は不景気が本当なのかと言う感じがしないでもなかった。

孫達は空気ばかり多い綿アメを抱え、タコ焼きを食べて満足そうである。毎年々々新年おめでとうは続く。違うのは、しきたりが、いくらかずつ変わって行く事である。簡素化と言えは聞えは良いが神棚に上げる重ね餅もとりかえずに二十日間置く様になった。考えてみれば、雪も大した降らず水も張らなくなつた。お天道様も簡素化運動か、ならばついでに行政簡素化とやらをやり規制とやらを無くし、ついでに消費税も面倒だからない方がよいか等、最後は初夢になつた。

大代南 跡辺 三夫

運載 読物 かつて子供だった大人のための

桃太郎誕生秘話(7)

若生一徳 (大代西)

びっこをひきひき、おじいさんはやと、おばあさんのいる洗濯場へと辿りつきました。心の雑草を刈り取った自分の思いのたけを口にしようとしても、久しぶりのニコニコのえびす顔が妨げとなつて言葉となりません。頬を赤らめ、あいびきにうわづつている青年時代へ一氣に戻つたかのようです。

洗濯という仕事から、それは自分の心の汚れを共に洗い流して、きれいさっぱりとよみがえって生きるすべを学んだおばあさん：うわづつた若々しい微笑をまのあたり、以心伝心、目頭があつくなつてきているのです。

おばあさんの心に、ほんとうの親切が生まれました。ほんとうの優しさが生まれました。石女(うまづめ)でもよい、これからはおじいさんを精一杯いたわつてあげようとの思いに溢れたのであります。おじいさんはおばあさんの肩に手を置く、三度ほど撫でさすりました。(抱きしめてあげればよかったのに)あどけない唇をそろえて合唱のおもむきをさせるさざなみ、そのさざなみの群れへたわむれる陽のひかりのきらめき、時折り雲の影がはらりと落ち、まばゆい明滅して滑っていきます。

小川の流れば、かくして何事がおきても、何事おきなかったと同じ風情で、さらさらと流れております。

次号に続く

十干十二支と

還暦のいわれ

古典の中には、年を表わすのに「甲子」とか「癸亥」ということばがしばしば用いられています。「戌辰の役」などともいいますし、今でも年賀状に「庚午元旦」などと記したのを見ます。この「甲子」「癸亥」「庚午」などが、十干十二支(干支)といわれるものです。

十二支のほうは、子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥といふ十二の動物名で、丑年の生まれとか、今年(今年)は午年だなどと、比較的よく使われていますが、十干になるとご存じない方も多いようです。

十干とは、別表に示す十の文字で、これを天地万物の元素である木・火・土・金・水の「五行」に配し、それぞれのおの陽(兄)と陰(弟)に分け、「きのえ・きのと」のように訓じます。「甲子」は「きのえ・ね」であり「癸亥」は「みずのと・い」です。

十干と十二支を組み合わせると、10×12ですからその最小公倍数60ですべての組合せが一巡し、元に戻ります。(甲子・乙丑・丙寅・丁卯・戊辰・己巳・庚午・辛未・壬申・癸酉・甲戌・乙亥)癸亥で60組ができて、甲子に戻る。これを毎年にあてはめますから、ある人の生まれた年の干支は、数え年六十一歳の年に再び還つてくるわけで、これを「還暦」といふのです。満六十歳の誕生日とは関係ありません。

平成二年は庚午で、その前の庚午は昭和五年、さらにその前は明治三年でした。

昔は元号がしばしば変わり、元年だけで翌二年には早くも改元という例も少なくありませんでしたから、元号では計算しにくく不便だったと思われます。そこで、西暦を知らない当時の人々は、この十干十二支を年数や年齢の正しい基準としていたのです。

別表

十干	甲	乙	丙	丁	戊	己	庚	辛	壬	癸
	(きのえ)	(きのと)	(ひのえ)	(ひのと)	(きのえ)	(きのと)	(かのえ)	(かのと)	(みのえ)	(みのと)
十二支	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉
	(ね)	(うし)	(とら)	(うさぎ)	(たね)	(うま)	(ひつじ)	(さる)	(さる)	(いぬ)
	==ねずみ					==うま				==いぬ

公民館 T・K

〔短歌〕

原点に食も戻るか老いゆけば
芹のみ放つ雑煮を恋うる
本郷貞子

津軽野に耐えし枝ぶりりんご樹の
一一八歳の言葉聞きたし
跡辺文江